

自治会用語集

1 根っこ精神(ねっこせいしん)

附中自治会の基本精神を指す言葉。「たくましさ」「磐石の構え」「開拓者精神」を表すとされる。もとは附中の校庭を作ったときにあった大きな「いたやもみじの木」の切り株を「根っこ」と呼んだことがはじまり。自治会員である附中の生徒を根っこの姿になぞらえ、「根っこの歌」に表されているような「不屈の王者」「簡素の美女」を附中生の理想としている。

「根っこの歌」は年2回行われる生徒総会の開会時に歌われ、附中の根っこ精神を確認しあっている。「根っこ」の写真は生徒玄関横の掲示板に掲げられている。第54回附中祭では、この「根っこ」の写真をもとに全校で巨大モザイク壁画を作成した。その完成壁画を掲げたときに全校で歌った「根っこの歌」は体育館に大きく響き、近年でもっともよい「根っこの歌」であった。生徒総会でもそのような歌声が聴けるとよいのだか…。

2 自治会(じちかい)

- ・(公立学校の)全校生徒会＝附中自治会(全校自治会)
- ・ " 学年生徒会＝学連(学年自治会) ※学連＝「学年学級連絡会」
の略称
- ・ " 学 級 会＝学級自治会

各段階の自治会には全て専門委員会が組織され、そのうち、「附中自治会」の専門委員会を「部局委員会」と呼ぶ。学年・学級自治会には、通常、学級役員のほかに、学級各部「総務部、生活部、文化・環境部、運動部、学習部、報道部」があり、各部の代表が部長である。日常的な自治会活動は、これらの専門委員会の計画、運営によって行われている。全校・学年・学級自治会のいずれも年2期(前・後)期制をとり、役員や構成員を4月と10月に選任している。

3 部局委員会(ぶきょくいんかい)

附中自治会の専門委員会全体を指す名称。5部(総務、衛生、生活、文化、運動)・3局(放送、販売、根っこ編集局)・2委員会(学識向上、交通安全)の10の部・局・委員会からなり、「部局委員会」と称される。通常、月曜の放課後に活動する。

附中では、公立学校でいうところの生徒会長にあたる役職を「実行部長」と呼び、各部局委員会の長を任命し、束ねる役割を任じられている。

各部局委員会の構成員は「実行部長」から任命された「部局委員長」と、各学級の代表者1～2名である。学年・学級自治会は、これら部局委員会の活動を手本とし、全校自治会の活動が各学級の部局委員を通し、学級各部に浸透していくことが望ましい。

4 議会(ぎかい)

正式には「附中自治議会」。年2回、4月と10月の実行部長選挙と同時に行われる議会議員選挙において、各学級から2名の自治議会議員を選出し、構成される。附中自治会の各部局委員会の活動計画、予算計画、各自治会行事計画、自治会規約などについて、定例議会(2ヶ月に一度、会期4日)を開いて審議する。議会議員は議会に出席するほかに、自分の属する専門委員会に関わる部局委員会の活動を見守り、講評を行う。

5 外部局(がいぶきょく)

「附中新聞社、附中応援団、附中図書局、附中JRC」の4つを外部局と呼ぶ。これらは各部局委員会の集まりや議会には加わらず、独自に活動している。

6 昼活(ひるかつ)

月・火・木・金の昼休みと5校時の間に設定されている、20分間の短学活の名称。かつては帰りの会が設定されていなかったため、その代わりとなるものとしてあった附中独特の時間。この昼活は全校自治会、学連、学級自治会が運営するのが基本となる。生徒の自主的な自治活動の表現の場となる。

月曜は全校集会となるので、火・木・金の3日間のメニューを主に学級の部長会で話し合っただけで決定する。全校自治会や学連の企画(学年集会を含む)が入ることも多いし、学校行事があるときや中体連の短縮授業のときなどは、昼活がカットされることがあるので、月予定や週報をよく見ながら、空いているところを計画するようにする。

7 部長会(ぶちょうかい)

一週間に一度、週末の放課後の約20分間、各学級で行われる学級自治会の代表者会議。出席メンバーは、学級役員と、学級自治会の各部(総務、生活、文化・環境、運動、学習、報道)の部長となる。主な役割は、学級生活全般の反省会と昼活の計画づくりである。通常学級担任も同席する。

8 週番(しゅうばん)

部局委員会の中の5つの部(総務→衛生→運動→文化→生活)が持ち回りで一週間、放課後に各教室の戸締りや整頓の様子、居残りなどを点検してまわる活動のこと。以前は帰りの会がなく、6校時が終わった後、すぐ清掃であったため、清掃点検の意味もあった。帰りの会ができてからは、清掃の点検項目は、帰りの会に週番が点検し、直せるものは直させて、残りの項目について放課後点検をすることになっている。

週番活動は、放課後2階中央ホールに集まり、挨拶後、それぞれの学年の5教室を5人で点検して歩き、再び2階中央ホールに集まり、点検結果を週番長(各部の部長)に報告することで終わる。職員週番も週番活動に同行し、活動の最後に講評を述べる。週末に行われる週番交代では、その週担当した部と、次の部が集まり、引継ぎを行う。引継ぎ後、その週担当した部は週番活動に行き、次の週担当の部はその場で、次週の目標や重点事項を決める。週番活動、交代共に制服で行うのが原則である。

9 まる弁(まるべん)

昼食は学級で弁当を食べるのが通例であるが、指名された生徒が指定された場所に弁当を持ち寄り連絡や話し合いを行うことをまる弁という。顧問も弁当を持ち、同席する。

遠距離から通学する生徒が多いため、放課後の活動に列車やバスの時間の制限がかかるため、部局委員会や外部局、学連の活動・企画の時間確保のため設定された、附中独特の会議の名称。実際行ってみるとわかるが、話し合いをリードする生徒が弁当を食べる間もなく昼食時間を終えるケースが多かったり、参加する生徒が食べることに夢中になってしまうこともあったりするので、なかなか話し合いが有効に行われないケースも多い。

10 合唱交歓(がっしょうこうかん)

昼活の代表的なメニューのひとつ。2クラスが音楽室などピアノのある部屋(音楽室・多目的2・多目的3)に集って、お互いの得意な曲を披露しあい、担任の先生方から講評をもらうのが一般的な流れ。同じ学年間で行うことも多いが、下級生から上級生に申し込むパターンも多い。合唱交歓を繰り返し行うことで、自分達の合唱に自信を持つことができ、単なる附中祭での賞を目指す合唱だけでなく、クラスの連帯感や附中の伝統を引き継いでいく気持ちを高めることができると思われる。